

盛大に世界伝統武術フェスティバル開催

中国鄭州市で10月/63カ国・地域から169チーム・2300人

第1回世界伝統武術フェスティバルが10月16日～20日、中国河南省鄭州市で挙行された。

フェスティバルは国際武術連盟(IWUF)と中国武術協会の主催により、伝統武術のより一層の発展と交流を促進することを目的として開催されたもの。河南省体育局と鄭州市人民政府の主管により行われた。

フェスティバルには、世界五大陸から63カ国・地域から169チーム・2300人が参加した。日本からは日本連盟の加藤六月会長を団長、村岡久平副会長を副団長、岡崎温常務理事を秘書長とする役員一行3人、12団体から121人、合計124人が参加した。

参加12団体のうち、北海道伝統太極拳養生法研究会(北海道連盟)、太極拳練神会(東京都連盟)、日中太極拳交流協会(東京都連盟)、日本花架拳学会(東京都連盟)、元龍太極拳交流協会(大阪府連盟)、大阪陳式太極拳研究会(大阪府連盟)、華麗太極拳連合会(福岡県連盟)、日本嵩山少林拳連盟(福岡県連盟)、福岡太極拳協会(福岡県連盟)、日本少林武術協会(熊本県連盟)の10団体が日本連盟加盟団体に所属する団体。12団体のうち、全日本少林寺気功協会、日本少林寺武術気功連盟の2団体が、日本連盟非加盟団体。

開幕式が16日夜、鄭州市の河南省スポーツセンターで行われた。

開幕式には、中国の陳至立国務委員、郝建秀全国政協副主席、李志堅国際武術連盟(IWUF)名誉会長・中華全国体育総会主席の各氏が出席した。国際オリンピック委員会理事で国家体育総局副局長の于再清IWUF会長は開幕式で挨拶を行った。

開幕式では、各国・地域別に入場。日本の旗手は中川二三生選手(太極拳練神会・東京都連盟)。日本の各チーム・参加者は、日本国旗を掲げる中川選手を先頭に堂々の入場行進を行った。

競技は18日～20日の3日間、鄭州市体育館と、鄭州大学体育館の2会場で、合計340種目が5コートで行われた。競技は、1)徒手套路、2)器械套路、3)対練、4)集団競技、が展開された。個人種目は、Aグループ(17歳～29歳)～Fグループ(66歳以上)までの年齢層別グループに分類した種目設定で行われた。

なお、競技会ともにフェスティバルの一環として論文報告会が18日と19日に市内ホテルで開催された。同報告会で、80余の論文が発表され、秦西平(全日本少林寺気功協会代表)、張成忠(愛知大学講師)の両氏がともに第1位

の評価を受けた。

特別演武会も行われている。中国国内、および海外から招請された世界チャンピオン9人による特別演武大会が17日16時から鄭州大学体育館で行われ、日本からは第7回世界武術選手権(中国マカオ/2003年11月)で太極剣の金メダリストに輝いた渡邊俊哉選手が妙技を披露した。

17日には、今回のフェスティバルの重要活動のひとつとして、少林寺の所在地である登封市訪問活動が行われた。

当日、少林寺山門前までの18.5キロの沿道で、登封市にある83校の武術学校の生徒40,000人が切れ間なく武術演武を展開して、世界各国・地域からの拳友を歓迎した。

滞在中、加藤六月会長、村岡久平副会長、岡崎温常務理事は、于再清IWUF会長、王筱麟中国武術協会会長らと親しく交歓した。

世界伝統武術フェスティバルは今後、隔年で実施の予定。次期開催地等は、今月下旬にミャンマー・ヤンゴン市で開催されるIWUF理事会で決まる予定。